

平成 28 年度 学校関係者評価報告書

学校法人中村学園
専門学校静岡電子情報カレッジ
自己点検・学校評価推進室

公益社団法人静岡県職業教育振興会による「静岡県版ガイドライン」をベースにして本学独自の自己点検・評価を実施し、まとめた平成 29 年 3 月 8 日付「自己点検・評価報告書」を元に、学校関係者評価を行いました。

なお、下記の一部の項目についてはすでに改善のための方策を実施しております。

平成 28 年度学校関係者評価委員及び事務局

<企業人>

池谷 和彦 SSB ソリューション株式会社 専務取締役
磯田 弘 有限会社ランドスケープ 代表取締役
齋藤 弘幸 株式会社コサウエル 代表取締役社長

<卒業生>

知又 史郎 氏 静岡情報処理センター株式会社 医療ソリューション事業部 システム部
櫻井 幸寿 氏 株式会社富士データシステム 開発部開発課 課長

<事務局：本学教員>

中村 徹 理事長・校長
有賀 浩 教頭・教育部長 ロボット創造学科長
中村 健太郎 教育改革推進室長代理
鈴木 正章 教務課長 ICT 映像・音響デザイン学科長
早崎 賢治 ICT 情報システム学科長 ゲーム応用学科長

1. 教育理念・目標

【現状と問題点】

- ・建学の精神を根本の理念とし、挨拶を基調とした全人教育を徹底。現代倫理科目においてはアクティブラーニングの手法を取り入れたグループワークも複数回行い、その成果を高めている。
- ・本学 30 年間に亘る職業教育の歴史を振り返るとともに、一つの里程標を建て、次代に向けて新たな一歩を踏み出すべく 30 周年記念事業を実施した。
 - (1) 創設者中村忠雄胸像設置・除幕式
 - (2) 産学連携教育プログラム成果発表会
 - (3) 高校生 ICT カンファレンス
 - (4) 地域交流イベント「ICT 分野の職業体験」

	<p>(5) 記念講演「“夢”は自分の手でつかむ」(講師：森理世氏 ミスユニバース世界大会優勝者)</p> <p>(6) 30周年記念式典・祝賀会</p> <p>(7) 同窓会総会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IoT時代に即した地域産業に貢献できる人材を養成している。 ・全ての学生に「笑顔」で明るい挨拶が出来るよう、学生との人間関係作りに注力した。自分の学科の学生だけでなく、学年も超え、他学科の学生ともコミュニケーションを心掛けたことで「話す」「聴く」力を向上させることができた。 ・新入生オリエンテーションを通して早い時期から教育方針・学ぶ内容の理解を促すことができた。 ・挨拶、時間厳守、清掃などの基本について、宿泊研修等を通して概ね身につけることができ、年間を通して実行できた。
<p>【改善のための方策】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教室配置を変更するため、今以上に姉妹校静岡福祉医療専門学校の福祉医療・子ども分野で学ぶ学生と関わりが増える。また平成30年4月開設予定の視能訓練士養成科においては「画像処理」をキーワードに連携を図る。その他、この環境を活かすため、コラボレイトによるイベント・授業を展開していく。 ・学生日直制を取り入れ、職員室・教員室に顔を出し、挨拶をするという習慣をつけさせる。 ・関連分野の企業や団体とタグを組んで即戦力となる人材を育成する。 ・引き続き文部科学省委託事業に参画し、中核的人材育成についても体制を強化する。
<p>【学校関係者による評価】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時代が大きく変化していく中で30年間に亘りICT分野の技術教育を続けられ、人材を輩出し続けておられる貴校に、業界として深謝すると共に、今後の発展を衷心より祈念申し上げます。 ・中堅社員教育にもアクティブラーニング(以下ALと表記する)の取り入れが進んでいる。 ・異業種交流のALによって仕事における人間関係構築力を向上させようという事例があるが、このような学びの場、学びのスタイルを学内で実施できることこそ専門学校の強みだ。 ・高等教育においては、人間的に成長していることこそ重要である。 ・面接試験においては、入社後にコミュニケーションスキルが活かせるかどうかを見ている。 ・専門学校で学ぶ中で人との出会いや企業連携から学べることは貴重な機会と心得て、それを学生が自身の力としてうまく吸収してほしい。 ・自分の興味のあることを見出し、それを先生に聴きにいけない様な学生が良いと思う。 ・職業人として自信をもって堂々と笑顔で話ができること。技術的な側面以上に「人的な即戦力」であってほしい。 ・画像処理についてはICT関連大手メーカーの取り組みがある。顕微鏡画像処理、画像認識等、そのアルゴリズムロジックが重要で、医療システム開発現場でも役立つ技術。先進的に取り組んで頂きたい。
<p>2. 教育活動</p>	

【現状と問題点】

- ・教育課程編成委員会を年度内2回実施。各分野関連企業との密接な情報交換により、専門的職業教育内容を一層ブラッシュアップした。
- ・「話せる学生」を育成するため、授業において学生が話す機会を頻繁に設けた。また、このことについては入学前事前指導「ステップアップレッスン」でも取り上げ、周知を図った。
- ・カリキュラム・シラバス・講師派遣等の面で、各分野の企業からバックアップしていただいたため、より実践的な授業内容となり、学生も熱心に取組むことができた。ただし難易度が高い内容もあった。
- ・プロゼミ、ゼミナール科目において、学年・学科・コースを超越したコラボレーションの中で、上級生は下級生の指導により人間性を大幅に向上させた。下級生も大きく成長し、プレゼンテーションスキルの向上が著しい。
- ・地元企業・卒業生との連携により、入学後早い段階から企業見学、企業内での実習、エンジニアと学生の間で情報交換を実現し、学生は目指す職業のイメージをより明確にすることができた。その結果、目的意識の向上が図れ、学びへのモチベーションを向上させられた。
- ・職業とキャリア、社会人常識マナー検定に対する指導を強化、学生の職業キャリア意識と社会常識力向上を目指した。
- ・IoT 総合技術展・ET ロボコン（パシフィコ横浜）、東京ゲームショウ等、県外で行われた大イベントを見学。自分たちの学ぶ技術がどのように具現化されているかを目の当たりにできた。
- ・卒展で産学連携教育プログラム及び卒業研究の成果プレゼンテーション、展示、実演を行うなど、学内における発表会を複数回経験することで、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を向上させることができた。加えて、計画的な開発・制作活動が行え、PDCA サイクルの実体験、ユーザーからのニーズを的確に反映しての更なる開発・制作で成果物のレベルも向上させることができ、大きな自信に繋がった。
- ・ドローン空撮企業との連携により、組込み・ロボット技術、映像撮影・編集技術、ゲーム分野への応用等について、本学が目指す分野における職業教育の重要性を再認識することができた。
- ・アクティブラーニングに関する実体験を含めた研修を複数教員が受け、学内研修で情報共有を図った。グループワーク等が一段と活発になり、教育的な成果が見られた。
- ・コマシラバス、教材について、一段と電子化を推進。学生はどこにいてもアクセスして自学自習、予習・復習ができるようになった。
- ・授業の問題点に対する課題提案や改善につなげるために、前期・後期終了後（計2回）に授業アンケートを実施した。その結果に基づき、教員個々で授業点検・評価・改善を実施した。
- ・新しい教材（Arduino・Raspberry Pi）を導入したことで、IoT時代のエンジニアに求められるスキルを向上させることができた。
- ・1年次にプロゼミを通してグループ開発を深く経験することができたため、2年次のゼミナール・卒業研究では学生自ら率先して開発プロセスの改善を行うことができた。
- ・地元企業が主催するワークショップ「しずおかアプリ部」を本学に誘致・連携し

	<p>た。教員、学生も参加しゲーム開発やその周辺技術を学ぶことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米国西海岸への研修・修学旅行において、シリコンバレーで起業した日本人社長様から ICT に関する現地最新情報を頂くことができた。学生・引率教員とも視野を広められるとともに、シリコンバレーにおける起業・企業経営について研鑽を積むことができた。
<p>【改善のための方策】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設計開発、制作等、業種に関わらず必要である製造・流通等に関するビジネス知識を習得させるカリキュラムを研究・導入する。全国経理教育協会の検定試験・テキスト等との連携を図る。 ・職業とキャリア科目の教育強化（アクティブラーニングを一層推進）。 ・アクティブラーニングによる、学生能動型の授業を定着化させる。 ・卒業生をはじめとする業界人と交流できる機会を増やす。 ・退学者ゼロを目指す。 ・18 歳から選挙権が与えられるようになったことを踏まえ、学生に選挙や政治についての関心を持ってもらえるよう講演等を実施したい。 ・地元組込み系企業と連携し、ET ロボコンに挑戦する。 ・ものづくり分野の実務において、モデリングの重要性が一層高まっていることを受け、UML 導入、ツールを導入する。 ・ロボット関連教材、取り扱うセンサーの種類を増やす（より多種の機械的動作を習得するため）。 ・新たなインターンシップ先を開拓する。 ・年度末の「卒展」を企画・実施し、本学における職業教育集大成の場とすることができた。学校関係者、教育課程編成委員、企業人、企業団体、保護者を含め 400 余の案内状を送付。次年度以降も継続して、さらにブラッシュアップしたい。 ・産学連携教育により、1 年次～2 年前期で関連業界企業と連携する事でスキルアップ及び職業観を育成。2 年後期の卒業研究で一般企業の要望に応えられる形が望ましい。 ・今年度初であったロボット創造学科、ゲーム応用学科の 1 年次実施科目について、その振り返りを行い、カリキュラム構成、授業内容・時数、教材内容等、ブラッシュアップを図る。 ・「しずおかアプリ部」を引き続き本学へ誘致し、交流を深める。
<p>【学校関係者による評価】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・記念事業の一環として学生が産学連携で様々な経験ができたことと、その成果をプレゼンする機会を設けられたこと、またその発表内容及び学生が高いプレゼンテーション能力を身に付けられたことを高く評価する。 ・モデリングにおける UML の教育、是非とも実践してほしい。仕事現場でも利用している。まずは UML を読めるようにしてほしい。 ・ハードウェアに長けたフィールドエンジニア系人材はこの企業にも最低 1 人は必要。全国から需要があると思われる。本学の強みとして売り込んでいただきたい。 ・映像・音響の世界も技術が急速に進歩・変化している（コンピュータ内蔵アンプ、音響への LAN 利用等）。コンピュータが分からないと仕事にならない。また機器が進化することで撮影方法、録音方法が変わりつつある。最新デジタル技術を大切にしながらアナログな部分を学んでほしい。 ・コミュニケーションにおいて、会話を始める前の事前準備が肝要。また会話の中で相手の感情を読み取る力が求められる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の教育手法は様々。専門学校教育の中での実践には大きな期待がある。教え手側も研修を重ねてほしい。 ・目指す人物を見つけることで業界への興味を深め、学びのモチベーションを高めるために、卒業生との交流の中からもなりたい自分を描かせるとよい。学生にリアリティをもたせたい。
3. 学生受入れ	
【現状と問題点】	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスへの企業協力を仰いだが生徒数は微増。特に夏のオープンキャンパスでは車載組込み企業、ドローン空撮を先導的に展開する企業からプロを招いて実技を交えた体験授業を実施。来校者には大変興味を持ってもらえた。 ・ドリームサイエンス（東海大翔洋高校・中学主催）でのロボット体験教室開催協力。「どい〜らシズラブ」（エコパで開催）で「わくわく職業体験ブース」協力。富岳館高校電気電子分野で学ぶ生徒向けロボット体験出張授業実施。これら活動を通じて県内に広く本学をアピールできた。 ・高校生 ICT カンファレンス開催。6校 23名の生徒が参加。 ・学科パネル作成し、各校舎のホールに設置。オープンキャンパスや出張授業等でも活用し、広報的な効果を高めている。 ・オフィシャルサイトのイメージアップを図った（PC対応ページ、スマートホン対応ページ、双方）。 ・時間割、教材費の事前連絡を迅速化し、学校生活における学生の利便性の向上を図った。 ・ゲーム応用学科において、目指す人材像が、ゲームクリエイター系と一般のソフトウェア開発技術者系の2系統あることが分かりづらさにつながってしまっている。 ・県内他校にない音響分野への需要を高めるため、音響デザインコース専用チラシを作成、ライブハウス、貸スタジオ、公立のホール等、音楽関連各所に配布した。その結果、音響・音楽関連企業との繋がりを築くことができた。産学連携プロジェクトが更に充実する。
【改善のための方策】	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校等への出前授業について、内容のバージョンアップ、種類を増やし、ニーズに応える。 ・平成29年度も高校生 ICT カンファレンスを誘致する。開催時期の検討が必要。 ・小中学生向け講座の企画と実施（企業連携）地域貢献により本学の教育内容を発信する。 ・オフィシャルサイトの内容充実を図る。 ・企業研修等を誘致する。 ・業界企業から注目されるよう、教育内容の高度化、充実を図る。 ・技術営業職、フィールドエンジニア職について求人があり、コミュニケーション能力に長けた学生をインターンシップ体験させるなど、この職種についても就職活動を活発化させる。
【学校関係者による評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTシステム分野、エンターテイメント分野の職業啓蒙活動を高く評価する。県内人口減少、特に若者が著しく減少してしまっている現在、貴校をはじめとする地元の職業教育機関への期待は否応も無く高い。 ・小中学校向けに出前講座を企画したい。そこから徐々に職業教育へつなげていく。 ・専門高校向けの出張授業等にも力をいれてはどうか。

	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスには企業側からも応援したい。体験授業への講師派遣や高校生向け先端技術講習など、協力は惜しまない。 ・オープンキャンパスに何度も来てもらえる仕組み作りに注力すべき。参加することでどんなメリットがあるのかわかりやすく表現すべき。
4. 教職員組織	
【現状と問題点】	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的技術並びに教育力向上について、教員研修をふんだんに実施した。 ・文部科学省委託事業に参画したことで、IoT 関連企業人からの講演受講及び情報交換が行えた。 ・静岡情報産業協会との連携により、地元 ICT 企業との連携が密接となった。 ・専任教員について、企業における実地研修を更に増やす。 ・電子情報・福祉医療 2 校の連携を密に、各学科長と連携し、組織的に業務を遂行した。 ・例年以上に外部講師との密な連携を図ることができた。その結果、従来の教材にとらわれず、時代に即応した実習指導ができた。 ・静岡県内のゲーム開発に関わるクリエイターの勉強会である「しずおかアプリ部」に月 2 回参加し、ゲーム開発技術を吸収するとともに、業界の最新技術動向について情報収集を行った。 ・ゲーム関連の文科省委託事業に参加し、関連企業や他県同種専門学校と多くの情報交換が行えた。
【改善のための方策】	<ul style="list-style-type: none"> ・より計画性をもたせた研修計画と実施、そのまとめと学内での情報共有を行う。 ・新学校種も視野に入れながら、よりよい職業教育が行えるよう、教員組織に配慮、教員研修を実施し、教員自ら現場の状況を把握する。 ・文科省委託事業の関連でクリエイタートライアウトや CCS2017 に教員の立場で参加することはできたが、新年度は学生と共に参加できるように年度当初より計画する。
【学校関係者による評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・地元産業団体との連携校として、地元企業としても大きな期待をしている。教員の方々と企業人との情報交換や研修会、若手社員の研究会・勉強会実施など、共同で企画・継続的な実施をお願いしたい。 ・インターンシップにおいては、学生だけでなく教員の皆さんの研修として位置付け、実施してもよいのではないかと。またその協力をさせて頂きたい。
5. 施設・設備等	
【現状と問題点】	<ul style="list-style-type: none"> ・3D プリンターを実験的に導入した。 ・部品庫の管理、より効果的な実験・実習のため、テープライター導入。高い効果が得られた。 ・外付けディスプレイを導入。デュアルディスプレイ化したことで、特に PDF 化・ウェブ化した電子教材の活用、ウェブデザイン、CG デザイン等の制作活動に高い効果が得られた。 ・業務用ビデオカメラを使用した産学連携 PV 制作で、クオリティの高い映像を撮影することが出来た。 ・OZOBOT、アーテックブロックを体験授業に導入した。トレースするラインの色でのプログラミング、画面上にブロックを並べるプログラミングなどが行えることから、小学生から活用ができ、多くのイベントで活用できた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント・ライブ等で利用する照明設備を試験的に導入した。 ・従来、家庭用の無線LANアクセスポイントを使用していた箇所を、法人向け無線LANアクセスポイントに変更することで、無線LAN環境の品質が向上した。 ・DHCPで割り振ることのできるIPアドレスの範囲が狭い。
【改善のための方策】	<ul style="list-style-type: none"> ・3Dプリンターの活用方法を進展させ、ロボット開発におけるパーツ製作等、3DCGモデリング、データ作成について研究を深める。 ・現在南町キャンパスで利用している学内インターネット接続サービスのコストが高いため、他のサービス等への切り替えを検討する。 ・森下町キャンパス、南町キャンパス間のVPN接続を研究・導入を実現し、現在利用中のクラウドサービスよりセキュリティ面を強化する。 ・外付けディスプレイの台数を更に増やしたい。 ・サーバ、プリンター、PC等に割り当てている固定IPアドレス資源を整理して振り直し、DHCPで割り当てることのできる連続したIPアドレスの範囲を十分に用意する。
【学校関係者による評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパス自体が静岡駅至近であり、このメリットを最大限に活かせるように、イベント等を企画・実施されたい。 ・音響分野のデジタル化が急速に進んでいることから学内でもそれに対応できる教育環境を充実してほしい。 ・3Dプリンターについては地元にも開発メーカーがあるので連携してはどうか。 ・照明機器について、その整備を始められたことは素晴らしい。
6. 学生生活支援	
【現状と問題点】	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的技術教育レベルが向上するとともに、学生の仕事への意識が高められた結果、専門的職業への就職率が一段と高まった。反面、「自立」への意思形成が遅く、就職活動に踏み出せない、活動範囲を拓けるのが遅い、などの学生も散見される。 ・就職活動に向けた外部イベントに積極的参加がみられる。 ・体調不良学生に対してはSNS等を活用し、即時対応・支援・指導を心掛けた。 ・定期的に個人面談を行うことで、学業や学生生活上の悩みを早めに察知できるようにした。 ・例年に比較してアルバイトをしている学生が少ない。放課後も積極的に学習・実習・活動する学生の姿が多くみられた。 ・教員自身が企業とのネットワークを膨らめた結果、従前にはなかった求人を得ることができた。またどの業界も若手人材確保に苦慮していることがわかった。
【改善のための方策】	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻理由の殆どが体調不良であるため、単純に時間厳守を指導するだけでなく、体調管理に関する指導を行う。 ・教室移転する学科・コースについては、教室・環境等の使用方法等を「学生の手引き」で指導徹底する。 ・就職活動関連イベント情報を集約し、SNS等で早期に周知する。 ・採用・就職活動動向に関する調査報告等を収集し、適時に提供する。 ・ネットに依存しがちな就職活動を「リアル」かつ積極的に取り組めるように指導する。 ・就職活動に向けた外部イベントに全ての学生が積極的参加できるよう指導する。 ・市町・商工会議所・商工会主催の就活準備イベント・交流会・地元企業合同説明会に参加させる。また若者雇用に積極的な企業を掲載する『静岡県地域企業就職情

	<p>報誌 2018』の企業に、学生自ら積極的にアプローチできるよう指導を強化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自己表現力」向上対策の一つとして「フレームワーク」の活用を指導する。定期的に学生生活を振り返り、「成長実感」を獲得させるような取り組みを実施する。 ・アルバイトをしている学生が少ないことにより、放課後等を自主学習に利用しやすいというメリットがあるが、社会経験を積ませるために業界関連のアルバイトを紹介することも考えたい。
【学校関係者による評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・退学者の少なさに良い意味で驚いている。 ・企業から経済的困窮家庭への直接的な支援は難しいので、実践的な技術教育面でできる限りの支援を行いたい。 ・目指す業界におけるアルバイトの推進には大きなメリットを期待する。 ・企業においても心的な問題を抱える社員がいることから、その対策等も含め、教育機関との情報交換をお願いしたい。
7. 管理・運営	
【現状と問題点】	<ul style="list-style-type: none"> ・教室移動後も不便のないように機材、部品管理を徹底した。導入したラベルライター、保管用ケース等を整備。 ・古い機材等を廃棄、環境整備した。 ・保管年数を過ぎた書類は、全てシュレッダーにて処分完了した。 ・セキュリティソフトウェアを更新した。 ・Android アプリ開発体験用に今年度より Appinventor2 を導入した。開発用アカウントとして教員の Google アカウントを使用している。 ・平成 29 年 5 月末から施行される改正個人情報保護法に関するセミナー、サイバーセキュリティ対策講座に参加・研修し、その内容を学内研修で教職員全員に周知・徹底した。個人情報保護の徹底、サイバーセキュリティに対する意識向上を図ることができた。 ・ネットワークの授業で使用してきたルータ、スイッチ類が老朽化したため、年度末に廃棄処分した。
【改善のための方策】	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護法を遵守する。 ・教室及び共用部分について、日頃から整理整頓、清潔を保つ。定期的なチェックを実施し、不要物については速やかに処分する。 ・各学科において、教員一人一人が成長できるよう、業務割り振りについて工夫する。 ・セキュリティソフトウェア更新（継続）。 ・開発用アカウントは学生については個人の Google アカウントを使用すればよいが、体験学習用に学校用アカウントを用意することを検討する。 ・多くの備品を移動または廃棄したので、備品台帳との整合性を確実なものとする。
【学校関係者による評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護については引き続き高いレベルでの管理をお願いしたい。明確なセキュリティポリシーが掲げられているので、そのコンプライアンスについても維持してほしい。 ・個人情報保護法改正に対していち早く研修を受けられていることを高く評価する。 ・企業においても、特にモノづくりの現場では古い機材や書類等の管理がなかなかスムーズに行えていない。ペーパーレス化を図るなど、具体的な管理体制構築につ

	いては情報交換させてほしい。
8. 財務	
【現状と問題点】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算の編成及び執行に関する規定は、寄附行為及び経理規程に定めている。 ・ 予算の編成は、予算単位で事業計画と予算案を策定している。 ・ 予算の執行にあたっては所轄する部署でチェックする体制を構築している。 ・ 寄附行為に基づく監査は規定に基づき行われ、その結果を理事会及び評議員会へ報告している。 ・ 財務情報公開規程を整備し、所管部署を定め、開示請求に対応できる体制を整えている。また学内掲示板及びオフィシャルサイトで情報公開している。
【改善のための方策】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生募集において、学生増を図るため、広報活動に一層の重点を置く。時期に合わせてオープンキャンパスのテーマを明確にする。 ・ 産学官連携を活用しながら非 18 歳人口、社会人、留学生、地域の方々が学びやすい教育環境を整備し、生涯学習に多様に対応できる職業教育機関としての責務を果たす。 ・ 収益事業の一つである「離職者訓練」においては講座受託価格（入札制度）が著しく低下している。厚生労働省「キャリアアップ助成金」「キャリア形成促進助成金」に対応する企業人研修等を計画・実施する。
【学校関係者による評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子化が一段と進む中、非 18 歳人口をターゲットとした事業展開も必要かと思う。 ・ 30 周年記念事業で行われた地域連携事業を引き続き展開してはどうか。地域連携から徐々に枠を広げ、企業研修やシルバー世代向け講座を企画・実施するなど、事業を膨らめられたらと考える。

以 上